



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

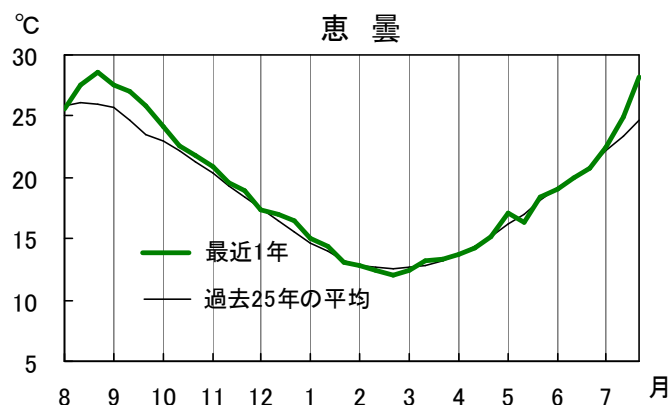
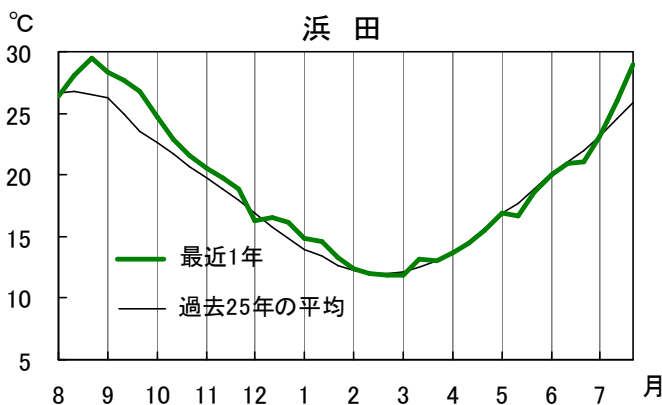
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《6月の海況》

6月	月平均	平年差	評価
浜田	20.6	-0.4	平年並
恵曇	19.9	-0.1	平年並

沿岸定地水温は、6月は浜田、恵曇とも平年並みとなりました。7月は浜田、恵曇とも中旬から水温が急激に上昇し、7月末現在では平年より3℃程度高めとなっています。



 《 6月の漁況 》

【中型まき網漁業】

全般に漁獲物の主体を占めるマアジが不調で、浜田地区では平年の4割、西郷地区及び浦郷地区では平年の5割の漁獲量でした。ただし、各地区の漁獲金額はマアジの単価が平年の1.8~2.3倍と高かったことから、浜田地区で平年の8割、西郷地区で平年並、浦郷地区で平年の1.2倍となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港(属地5トン以上)ではケンサキイカ、スルメイカ共に平年の約1割しか漁獲されず、漁獲量は前年の1割、平年の1割と極端な不漁でした。西郷港(属人5トン以上)ではスルメイカが漁獲のほとんどを占め、漁獲量は前年の8割、平年の3割と不調でした。

【バイかご漁業】

石見・出雲地区のバイかご漁業におけるエッチュウバイの漁獲量は1隻あたりでは平年並~平年の1.6倍と好調でしたが、一部出漁しない船もあったため、全体では漁獲量・金額共に平年並となりました。昨年同様、大型貝が多く、大・特大サイズでエッチュウバイ漁獲量の8割を占めています。

【シイラまき網漁業】

シイラまき網漁業は、シイラは平年の約2倍と好調でしたがヒラマサは平年の約4割で、全体では平年の1.6倍の漁獲量でした。

【定置網漁業】

石見地区では主要漁獲物のマアジ・トビウオ類がいずれも平年並で、全体でもほぼ平年並の漁獲量となりました。出雲地区では主要漁獲物のマアジが平年の約2倍と好調で、その他トビウオ類が平年の8割、ブリが平年の約2倍の漁獲量で、全体では平年の1.3倍の漁獲量となりました。隠岐地区ではブリ・マアジ・トビウオ類・クロマグロなどが漁獲され、ブリが平年の約2倍、トビウオ類が平年の1.3倍、クロマグロが平年の4倍と好調でしたが、マアジが平年の5割と少なかったため全体の漁獲量は平年の9割となりました。

【釣・縄】

釣・縄は全般に出漁日数が平年の5~7割と少なかったため低調でした。石見地区ではハタ類、カサゴ・メバル類、マアジ、ヒラメ、イサキなどが漁獲され、漁獲量は平年の7割にとどまりました。出雲地区ではマダイ、ハタ類、キダイ、カサゴ・メバル類、アマダイなどが漁獲され、漁獲量は平年の6割でした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、キダイ、マダイ、ハタ類、アマダイなどが漁獲され、漁獲量は平年の5割でした。

【平成 20 年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海あたり漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
まき網 (中型・大 中型)	浜田	マアジ	176トン	28%	43%	6.8トン	47%	65%	▲
	西郷	マアジ	1,071トン	36%	50%	12.6トン	42%	51%	▲
	浦郷	マアジ	779トン	44%	50%	11.5トン	50%	59%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	6トン	12%	10%	84 kg	52%	45%	▲
	西郷	スルメイカ	10トン	82%	26%	152 kg	81%	84%	○
バイかご	久手	エッチュウバイ	22トン	110%	111%	1015 kg	151%	161%	◎
シイラまき	和江	シイラ・ヒラマサ	90トン	300%	168%	1774 kg	169%	161%	◎
定置網 (大型)	浜田	マアジ、ケンサキイカ、スルメイカ、トビウオ類	41トン	131%	156%	846 kg	118%	146%	○
	美保関	マアジ、トビウオ類、マルアジ、カタクチイワシ	159トン	84%	102%	1593 kg	89%	107%	○
	浦郷	ブリ、マアジ、クロマグロ、トビウオ類	31トン	60%	86%	1124 kg	64%	76%	▲
釣り・縄	仁摩	マアジ、ハタ類、カサゴ・メバル類、ヒラメ	4トン	50%	26%	14 kg	74%	51%	▲
	大社	ブリ、イサキ、カサゴ・メバル類	13トン	193%	8%	88 kg	210%	132%	◎
	西郷	カサゴ・メバル類、キダイ	7トン	48%	32%	32 kg	71%	63%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下



大型クラゲ情報

7月に実施された調査では東シナ海・黄海でエチゼンクラゲの出現が認められていますが、昨年より数は少ないようです。また、7月末現在で韓国沿岸全域および済州島付近でエチゼンクラゲの出現が確認されています。